

今だからこそ

災害に備えて事前の準備を

大切な生命を守るために、災害への備えは万全ですか？



▶豪雨により寸断された道路（谷内区）

■避難が必要な状況



大雨・台風



土砂崩れ



地震

■家庭や地域で災害に對する備えを確認

平成28年4月の熊本地震、同6月の1時間当たりの総雨量が150ミリの豪雨災害では、町内でも家屋の倒壊や浸水、土砂災害など多くの被害が発生しました。
これからの季節は、大雨や洪水、土砂災害などに特に注意する必要があります。災害に備えて次の3つの

ポイントを確認しましょう。

●家族全員で避難場所を確認しよう
●台風の際には事前に家の周りの確認をしよう

●非常持出品を準備しよう

災害は、いつどこで、どのような形で発生するか予測がつかないものです。日ごろから家庭や地域防災に対する意識を高め、しっかりと準備をしておくことが大切な生命を守ることにつながります。

■情報収集のための手段① ～最新の情報をいち早く確認～

●熊本県防災情報メールサービス

県が配信する防災情報サービスです。気象注意報・警報、河川水位情報、避難勧告などをメールでお知らせします。
entry@anshin.pref.kumamoto.jp
に空メールを送信して、事前登録してください。

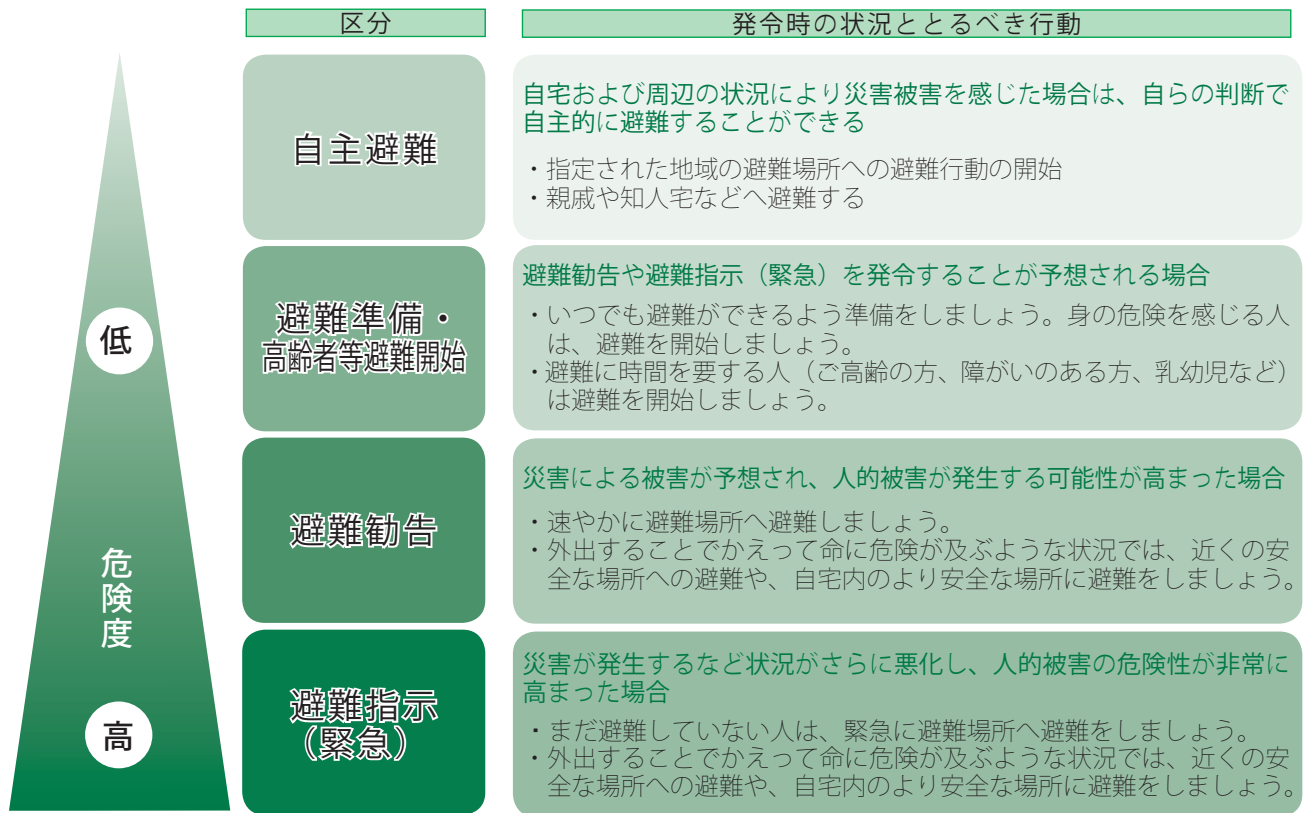
●熊本県統合型防災情報システム

県内の大雨などの気象情報や土砂災害警戒情報や河川の水位状況などをリアルタイムで確認できます。インターネットからアクセスしてください。

▶熊本県統合型防災情報システム
<http://www.bousai.pref.kumamoto.jp>

■町から発令される避難情報と発令時にとるべき行動

台風や大雨などにより災害発生恐れがある場合には、避難に関する情報を発令します。



台風や大雨などにより災害発生恐れがある場合には、住民の皆さんを災害から保護し被害の拡大を防止するため、町では避難に関する情報を発令します。

避難区分は高齢者など避難に時間のかかる方に早めの避難を促す「避難準備・高齢者等避難開始」、通常の避難行動ができる者に避難を促す「避難勧告」、危険が切迫し、早急な避難を促す「避難指示（緊急）」の3段階に分類され、さらに自らの判断で自主的に避難をする「自主避難」があります。避難区分については、気象状態や河川の推移などにより判断され、町公式ウェブサイトや防災無線による一斉通報、携帯電話などの「エリアメール」、サイレンの吹鳴などで伝達されます。避難をする場合には、慌てずに回りの状況を見て行動しましょう。

■生命を守るために情報収集を

気象庁が発表する注意情報や警報などは、災害による被害を最小限に抑えるために発表されます。テレビやラジオ、町、消防から発信される情報を常に収集・精査して、デマ情報などに惑わされないよう注意することが重要です。警報や勧告などがなくても、常に身の回りの状況に気を配り、身の危険を感じたときには、明るうちに早めの避難を心掛けましょう。

■町が発令する避難指示・勧告

台風や大雨などにより災害発生恐れがある場合には、住民の皆さんを災害から保護し被害の拡大を防止するため、町では避難に関する情報を発令します。

■情報収集のための手段② ～いざというときは早めの避難を～

●洪水情報の配信エリア拡大

国土交通省では、平成30年5月から国が管理する緑川、白川で、川が氾濫する可能性が高まった時に、対象の地域にいる人に氾濫の危険をお知らせする情報が緊急速報メールを活用し自動で配信されるようになりました。

●甲佐町公開マップ

町では、「甲佐町公開マップ」を整備しました。緊急指定避難場所や土砂災害警戒区域などを確認できます。

▶甲佐町公開マップ

<https://apps01.chklab.com/LG434442/CommonMap/Home/Policy/>



▲甲佐町公開マップ

災害に備えて事前の準備を

非常持ち出し品や避難所を確認しよう

■災害に備えて用意する非常持出品

●いつでも避難できるように準備しておくもの

食料品	□飲料水 □非常用食品（乾パンや缶詰など長期保存できるもの）
避難用具	□防災ずきんやヘルメット □懐中電灯 □携帯ラジオ □予備電池 □笛やブザー □携帯電話（充電器含む） □万能ナイフ □手袋
貴重品	□現金 □預金通帳・印かん □健康保険証 □身分証明書
衛生用具	□救急セット □常備薬・持病薬 □タオル □トイレットペーパー □ウェットティッシュ □着替え □雨具 □生理用品 □缶切り □粉ミルク・紙おむつ
その他	□ビニール袋 □カイロ □携帯トイレ □マッチやライター □スリッパ □食品用ラップフィルム □マスク □毛布 □その他自分の生活に欠かせないもの

●復旧までの3日間をしのぐ備蓄品

飲料水	□ペットボトル（1人1日3ℓ） □貯水した防災タンク
食料品	□米 □缶詰やレトルト食品 □梅干しや調味料 □フリーズドライ食品・チョコレート・あめなど
燃料	□卓上コンロ □ガスコンロ □固形燃料
その他	□生活用水 □毛布・寝袋 □洗面用具 □調理用具 □バケツ・アウトドア用品 □ポリタンク

■日ごろから防災意識を持って備えておくことが大切です

平成28年の熊本地震や集中豪雨の際には、土砂災害により水道・電気などのライフラインが寸断されるところに、道路や河川などが土砂災害などにより通行止めとなり流通が途絶え孤立する地域もありました。

大規模な災害時は、長期の停電や断水が発生し、支援物資の到着も遅れてしまう可能性もあるため、各家庭で3日間をしのぐ必要最低限の水や食料などを備えておくことが重要です。避難指示などの発令のため、すぐに自宅に帰れず避難所などでの長期の生活を余儀なくされる場合もあります。防災のために特別なものを用意するのではなく、できるだけ、普段の生活の中で利用されている食品などを備えるようにしましょう。

食料品などのほかに、着替えや常備薬など生活に必要なものをあらかじめリュックサックに詰めておき、災害が起きたときにいつでも持ち出せるようにしておきましょう。ご自身の環境に合わせて必要なものを準備してください。

■平成30年度緑川水防演習を実施 ～非常時の備えを万全に～



▲「シート張り工法」を実施する町水防団

5月13日（日）中甲橋上流左岸の緑川河川敷で、平成30年度緑川水防演習が行われました。

同演習は、緑川流域の6市町などが参加する緑川水防演習協議会（上田泰弘会長）が主催。洪水などの河川の非常時に際して迅速に対処できるように「水防法」では毎年、水防

責任者が水防演習を実施することが定められているため、同協議会の参加団体が連携・協力を図って水防に取り組むために実施しています。

町水防団（松尾憲親団長460人）は、土のうを付けた防水シートを堤防に設置し堤防への水の浸透を防ぐ「シート張り工法」を実施しました。



くらし安全推進室
佐々木 善平 室長

いざという時に 備えましょう！

「災害は忘れたころにやってくる」といわれます。2年前、私たちは熊本地震そして時間雨量150ミリの豪雨を経験しました。大規模な地震や風水害などでは、大切な命を失うことのないよう「自分の身を守る」ことを最優先にして、次に何をしたらよいかを、1人1人が常に考えておくことが大切です。

また、地区や町の防災訓練（今年は10月28日（日）に実施する予定です）などに積極的に参加して「防災力」を高めましょう。ご家庭では、屋内の安全確認、食糧および薬品などの備蓄品の点検と、非常持ち出しリュックの準備をしておくことで、いざという時に備えましょう。

「備えあれば憂いなし」です。

■町内の緊急指定避難場所、Wi-Fi 設置施設マップ



避難場所（所在地）		Wi-Fi 設置場所
① 町総合保健福祉センター （甲佐町豊内619） W	⑥ 龍野福祉ふれあいセンター （甲佐町上早川1334）	① 町役場・町生涯学習センター W
② 甲佐小学校 （甲佐町豊内613-1）	⑦ 白旗福祉ふれあいセンター	② 町民センター W
③ 町農業研修センター「ろくじ館」 （甲佐町豊内719-2） W	⑧ 白旗小学校 （甲佐町白旗50）	③ やな場 W
④ 甲佐中学校 （甲佐町中横田300）	⑨ 上益城農業協同組合第一営農センター（甲佐町白旗543-1）	W…Wi-Fi 設置場所
⑤ 龍野小学校 （甲佐町上早川1220）	⑩ 乙女小学校 （甲佐町津志田3037）	

■避難場所をあらかじめ確認し もしもの時に備えましょう

災害が発生し避難しなければなら
ない場合は、最寄りの避難場所に避
難します。

熊本地震のように夜間避難をする
場合や、勤務先から避難する場合も
考えられます。あらかじめ避難場所
や経路を確認しておき、いざという
ときにすぐ避難ができる状態を考え
ておきましょう。

大規模な災害が発生したときに、
被害の拡大を最小限にするためには、
自分自身の備えや自主防災組織な
ど地域で防災活動に取り組むことが
重要です。

災害に備えて今自分たちでできる
ことを考えることが、自分の生命や
大切な人の生命を守ることにつな
がります。

▼お問い合わせ先

TEL 096・234・1167
町くらし安全推進室

■自主防災組織で高める防災力

自主防災組織とは、「自分たちの地域は自分たちで守る」という共通の目的を持って、地域の人たちが自発的に結成する防災のための組織です。

災害発生時に消防団などが現場に到着するまでの間、地域で協力しながら人命救助や消火活動をして、被

～地域で災害に対する備えを～

害を最小限にとどめるために作られています。

この自主防災組織は災害発生時に最も頼りになる地域住民同士の助け合いを組織化したものです。

皆さんの地区でも積極的な防災訓練などを通じて、地域の防災力を高めませんか。



▲5月上揚区で行われた防災の講話